

## 広域魚種の資源管理について

### 1 T A Cの対象としていない広域重要魚種

(これまでの経過)

24年3月：水産基本計画において、「T A C魚種の拡大について引き続き検討する」ことを規定

11月：第59回水産政策審議会資源管理分科会において、カタクチイワシ、ブリ、ホッケ、ウルメイワシ、マダラをT A C対象魚種の追加候補とすることについて議論し、現時点で追加の必要性は低いが続ぎ検討とした

25年2～3月：各広域漁業調整委員会において、上記5魚種について資源状況、漁業実態及び資源管理について説明し、今後の管理のあり方について議論を開始

5月：広調委での検討状況を、第61回水産政策審議会資源管理分科会に報告

7～8月：カタクチイワシ及びブリの資源管理に関する方法及び意見について、関係都道府県から聴取

11月：各広調委において、カタクチイワシ及びブリの資源管理に関する今後の方向性を議論

11月：各広調委における検討状況を、第63回水産政策審議会資源管理分科会に報告

12月：国の定める資源管理指針に、「その他の広域魚種」として5魚種（カタクチイワシ、ブリ、ホッケ、ウルメイワシ、マダラ）の資源管理のあり方等を追加

(1) マダラの資源・漁業及び資源管理について

資料4-1

(2) ウルメイワシの資源・漁業及び資源管理について

資料4-2

(3) ホッケの資源管理について

資料4-3

(4) ブリ、カタクチイワシの資源管理のあり方の検討について

資料4-4

### 2 太平洋クロマグロ

太平洋クロマグロの資源状況と管理の方向性について

資料4-5

### 3 トラフグ

トラフグの資源管理について

資料4-6

# 我が国の海洋生物資源の資源管理指針(関係部分抜粋)

平成25年12月11日改正

## 第2 海洋生物資源毎の動向及び資源管理の方向

### 【魚種別資源管理】

#### 14 その他の広域魚種について

上記の魚種のほか、TAC対象魚種に次いで漁獲量が多く、広範囲にわたり生息し、国民生活上又は漁業上重要な魚種として、かたくちいわし、ぶり、うるめいわし、まだら及びほっけが挙げられる。

かたくちいわしの資源状況は、太平洋系群の資源水準は中位、動向は減少、瀬戸内海系群の資源水準は中位、動向は減少、対馬暖流系群の資源水準は低位、動向は減少となっている。地域により主となる漁業種類は異なるが、まき網漁業、定置漁業、船びき網漁業等により、シラスから成魚まで満遍なく漁獲されており、特にシラスを対象とした漁業が発達した地域もある。

ぶりの資源状況は、資源水準は高位、動向は増加となっている。主に定置漁業及びまき網漁業により当歳魚から成魚まで漁獲されており、漁業種類や地域によって漁獲物の年齢や漁期が異なる。

うるめいわしの資源状況は、太平洋系群の資源水準は中位、動向は横ばい、対馬暖流系群の資源水準は中位、動向は増加となっている。主にまき網漁業、棒受網漁業、定置漁業により漁獲されており、シラスは船びき網漁業で漁獲される。

まだらの資源状況は、太平洋北部系群の資源水準は高位、動向は増加、日本海系群の資源水準は中位、動向は横ばい、北海道系群の資源水準は高位、動向は増加となっている。主に沖合底びき網漁業で漁獲され、次いで刺し網漁業、小型底びき網漁業、延縄漁業等により漁獲される他、冬季に産卵のために接岸する大型個体が定置漁業により漁獲されている。

これらの魚種については、資源状況は概ね安定しているが、海洋環境の変化が資源の分布や漁獲の動向に影響することから、海洋環境や漁獲の動向等をモニタリングした上で、各地域における漁業管理等の情報を共有しつつ、各地域における関係者間の協議や広域漁業調整委員会の場などを通じて、資源管理のあり方について検討する必要がある。

また、ほっけについては、ほぼ全てが北海道周辺海域で漁獲されており、沖合底びき網漁業、定置漁業、底建網漁業、刺し網漁業など多様な漁業で漁獲されている。資源状況は、道北系群、道南系群、根室海峡・道東・日高・胆振海域の全ての資源水準が低位、動向は減少となっている。特に、ほっけ資源の大半を占める道北系群については、漁獲量及び漁獲努力量を大幅に削減するなどの強度の資源管理措置に取り組む必要がある。